



県内から108人の植林ボランティアが参加しました

水環境の保全や自然の大切さを広めようと、「市民参加の新たな森林づくり（県、市共催）」が4月28日、津山町横山地区の大萱沢浄水場付近の山林で行われました。県と市が植林ボランティア

緑豊かな森を次世代へ

市民参加の新たな森林づくり



スギの苗木を一本一本丁寧に植樹する親子

を募集したところ、県内から親子連れなど108人が参加。花粉の少ないスギ品種の苗木約800本を植樹しました。布施市長は「木を育てるのは人を育てるのと同じで、成長するには長い年月と手間暇を要します。すくすくと育つように植樹してください」とあいさつ。ボランティアに参加した佐藤千優さん（横山小5年）は、「枝葉をよけながら穴を掘ることを心掛けました。自分が植えた苗木に大きくなってもらい、地域の災害などを防いでもらいたい」と話していました。



平筒沼の花や植物をまとめた高橋さん。自费出版で作成して善王寺小や豊里小・中に寄贈しました

市の豊かな自然や歴史ある観光地などを多くの人たちに紹介しようと、写真集と観光ガイドブックがこのたび発行されました。「平筒沼ふれあい公園」の森とその周辺の植物」を発売したのは、豊里町の元教員、高橋由紀子さん。20年前に沼が整備されて以来、散歩をしながら沼周辺に生息する花や植物を観察し、写真に撮りためた223種を、A4版カラー印刷86ページにまと

登米市の自然・歴史を冊子に

「平筒沼の植物」「登米物語」発行



芳賀さんが発刊した「登米物語」④講演会などが行われたお披露目会

めました。高橋さんは「季節によって異なりますが、年に30回以上沼に足を運んでいます。10年前には観察できたシロバナカタクリ（ユリ科）が、今では見ることができません。自然体系によるものか盗採なのか

は分かりませんが残念です。しかし、昔に比べて沼周辺のごみは少なくなっています。今後もこれまでどおり、楽しみながら写真を撮りたい」と話していました。登米町出身で川崎市在住の芳賀明夫さんは、みやぎの明治村の観光名所を掲載した観光ガイドブック「登米物語」を発刊しました。ガイドブックには、館山コース（徒歩約1時間半）と前小路コース（同約2時間半）の2つを、写真と解説付きで分かりやすく紹介。登米に昔から伝えられている昔話5話も掲載されています。4月28日に遠山之里で行われたお披露目会には、関係者約百人が出席して、登米の観光についての講演などが催されました。なお、「登米物語」は税込み価格525円で、遠山之里などの観光施設で販売されています。

加藤家が国登録有形文化財に

明治初期の養蚕業対応造りの住宅



①加藤家住宅主屋②1階部分は高い設計された天井があり出させる数々の品がある額理家の落款がある額

登米町日根牛の「加藤家住宅主屋」が、文部科学省文化審議会での有形文化財（建造物）に登録されることが決まりました。有形文化財とは、建築50年を経過した建造物や土木構造物、工物で歴史的景観を保持し、再現することが難しいものなどをいいます。国

文化財と指定文化財があり、現状変更には強い規制のある指定文化財に比べ、登録文化財は改修も可能です。登録された加藤家住宅の主屋は、明治初期に建てられたとされ、板ぶきだった屋根を昭和10年ごろに天然スレートぶきに改修。木造一部2階建ての入り母屋造りで、1階の一部が吹き抜けとなっており、

「せがいで造り」という工法で屋根を大きく見せています。養蚕に備えた高い天井や、下屋状に張り出した居間兼台所の「カマヤ」などから、明治期養蚕住宅の特徴がうかがえます。

また、加藤家は、文久2年（1862）から地域のまとめ役の「肝入り」をしていたと伝えられており、古文書や記録文書などの貴重な資料もたくさん残っています。11代目の惣吉さんは「現在家族は2階で生活をしてい

ますが、1階部分は一般の皆さんに開放しています。手を掛けている庭園もありますので、ぜひ足を運んで歴史に触れてみてください」と話します。加藤家は無料で公開していますので、見学する際は事前に電話でご確認ください。◆国登録有形文化財「加藤家住宅主屋」登米町大字日根牛峯畑138番地1 加藤惣吉 ☎0220(52)3410

心動かされる 力作がズラリ

登米市民ふれあい美術展「登展」



市民の力作75作品と特別展示7作品が展示された登展

第3回登米市民ふれあい美術展「登展」（登展実行委員会（財）登米文化振興財団主催）が4月30日から5月6日まで、登米祝祭劇場小ホールで開催されました。美術展には、幅広い年齢層

の市民51人が、水墨・水彩・油彩画など75作品の力作を出展。そのほか、今回はパンフレットやポスターの原画、木工細工、各種展示会の入賞作品などの特別展示（6人・7作品）もありました。30日に開かれたオープニングセレモニーには、実行委員や市文化協会員ら約20人が参加。関係者によるテープカットが行われた後、一般に公開されました。



実行委員らによるオープニングセレモニー